

群 教 セ	G01 - 02
	平 17.230集

マルチメディア教材「書くこと大好き」 の作成と活用

特別研修員 松田 康子 (吉井町立南陽台小学校)

（研究の概要）

本研究では、小学校国語科で言語を通して適切に表現する力を育てることができるマルチメディア教材「書くこと大好き」を作成した。作成にあたっては、印象的な静止画や動画を提示し、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書かせ、さらに、自分の書いた文章を見直すことができるようにした。児童がこの教材を活用することで、表現を工夫して文章を書くとともに、書くための基本を身に付けることができるようになった。

キーワード 【国語-小 書くこと 作文 表現力 マルチメディア】

主題設定の理由

小学校学習指導要領国語科では、「伝え合う力を高める」ことが、目標に位置づけられ、言語を通して適切に表現したり理解したりする力を重視している。

本校3年児童の日記や作文を見ると、出来事を順を追って書くことはできるが、自分の気持ちを「楽しかった」「うれしかった」「緊張した」などの直接表現で表すことが多く、様子や感じたことなどの伝えたいことを、文章で分かりやすく表現する力が身に付いていないことが分かる。

国語の学習に関する意識調査をしたところ、「思ったことをどのように書いたら良いかよく分からない」「思ったことをうまく書けない」という回答があり、文章で適切に表現することが苦手であることが分かった。また、書いた文章を自分で見直したはずなのに文章の主述が整っていなかったり、符号の使い方や改行の仕方ができていなかったり書くための基本事項が正しく身に付いていないことが分かった。これらのことから、自分の伝えたいことを文章で適切に表現していけるようになるためには、文章で分かりやすく表現しようとする力と自分で文章の間違いに気付き直していく力を身に付けていくことが必要であると考えた。

そこで、児童が事柄や様子を見て感じたことを伝えてみたくなる印象的な静止画や動画を提示したり、書いた文章を児童自身で見直させたりすることができるマルチメディア教材「書くこと大好き」の作成を考えた。この教材では、静止画や動

画を見て感じたことを文章で表現させ、書いた文章を発表し合ったり例示となる言葉や例文を見たりすることで語彙を増やし、様々な文章表現に気づかせることができるようにする。さらに、見直すポイントに関する問題を解きながら自分の書いた文章を見直していけるようにする。これを国語科の「書くこと」の学習に活用していくことで、表現を工夫して文章を書くとともに、書くための基本を身に付けることができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校国語科「書くこと」の学習において言語を通して適切に表現する力を育てることができるマルチメディア教材「書くこと大好き」を作成し、活用することにより、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書くとともに、書くための基本を身に付けられるようになる有効性を小学校国語科における授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

印象的な静止画や動画を提示し、それをもとにして書いた文章を見直すことができるようにすれば、マルチメディア教材「書くこと大好き」を作成できるであろう。そして、本教材を活用すれば、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書くとともに、書くための基本を身に付けることができるようになるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア教材「書くこと大好き」の概要

(1) 基本的な考え方

言語を通して適切に表現するには、自分の伝えたいことを文章で分かりやすく表現できると、正しい文章を書くための基本を身に付けていることが必要である。そのためには、表現を工夫した文章をたくさん書かせた上で、書いた文章を自分自身で見直させていくことが大切であると考えられる。

まず、語彙を増やし様々な文章表現を知ること、自分の伝えたいことを文章で分かりやすく表現できるようにさせたい。そこで、全員が同じ印象的な静止画や動画を見て思い浮かぶ言葉や文章を書き、例示される言葉や例文を見たり書いた文章を児童間で発表し合ったりできるようにする。

次に、自分の書いた文章を見直すことで、正しい文章を書くための基本を身に付けさせたい。そこで、書くための基本として、原稿用紙への書き方や間違いやすい言語事項を取り上げ、問題に回答しながら、見直しができるようにする。

これらのことをふまえて、本マルチメディア教材「書くこと大好き」を作成する。

(2) 作成上の工夫

様々な文章表現を引き出していけるように、児童が事柄や様子を見て感じたことを言葉や文

章として表現して伝えてみたくなる静止画や動画を提示する。そこで、風景や自然災害の様子(図1)生き物の様子(図2)などの印象に残るとと思われる静止画や動画を撮影したり、G-TAK(群馬県総合教育センター楽しい授業作り教材コンテンツ集)から集めたりして、提示するための画像を精選する。

プレゼンテーションソフトを使い、クリックすると、静止画や動画上に例示となる言葉や例文が表示されるようにし、言葉や文章がなかなか浮かんでこない児童も文章を書きやすいようにする。

小学校指導要領の言語事項〈表記に関する事項〉の句読点・符号・改行と、〈文及び文章の構成に関する事項〉の主語・述語・修飾語・接続語に関する基本事項を、書くための基本としてWeb形式にまとめる。個々の児童が自分のペースで、書いた文章を見直すことができるように、問題を作成し、解説を加え、一つ一つ見直しができたら、次へ進めるようにする。

本教材の構成は、以下の通りとする(図3)。

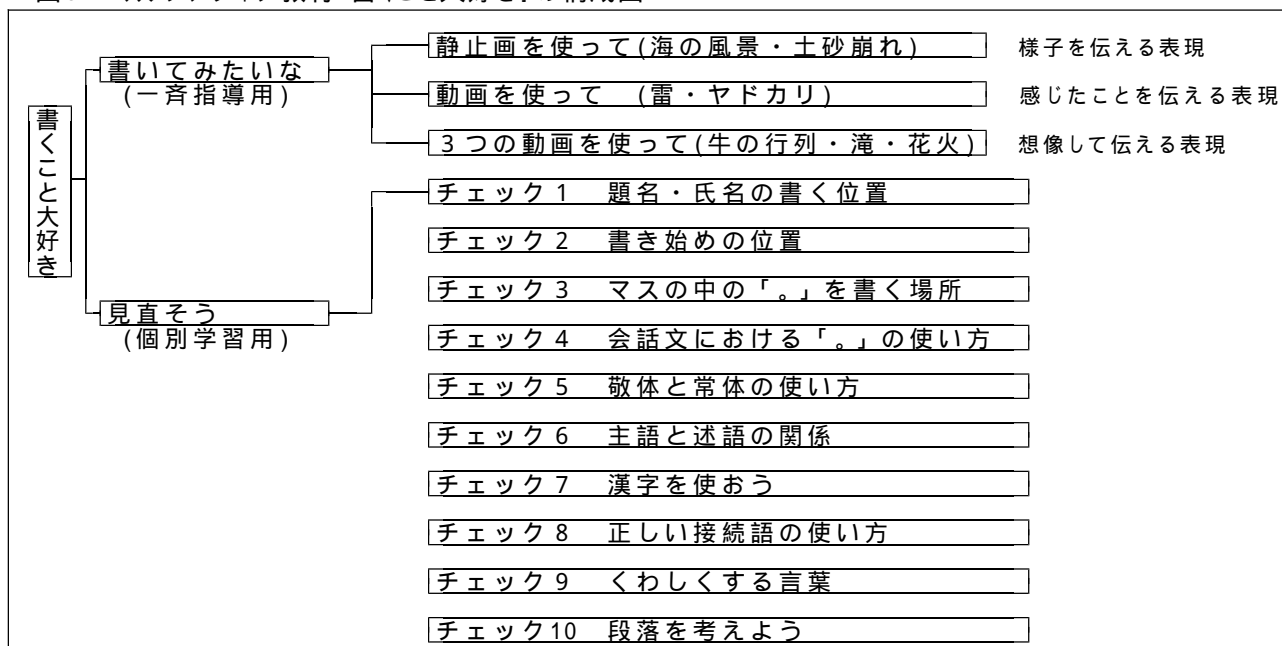
図1 土砂崩れの様子



図2 ヤドカリの様子



図3 マルチメディア教材「書くこと大好き」の構成図



2 マルチメディア教材「書くこと大好き」の内容

(1) トップページ

起動すると「だれにでもわかるように書いて、自分のすなおな心をきちんとつたえたいね」という本教材のめあてとなる画面が、表示される(図4)。「書いてみたいな」と「見直そう」の項目をクリックすると各ページへ進むことができる。

(2) 書いてみたいな

「書いてみたいな」のページでは、「静止画を使って」「動画を使って」「3つの動画を使って」の3つの項目が表示される。それぞれの項目を選ぶと、各画像と活用方法が表示される。

ア 静止画を使って(様子を伝える表現)

「海の風景」は、青い海と青い空の間に白い船が浮かんでいる静止画が表示される。見たままの様子を伝える表現をさせたい。

「土砂崩れ」は、たくさんの土砂が道路に落ち、救助にきている静止画が表示される。あまり目にする事のない光景を見ることで、観察したことを細かく伝える表現をさせたい。画像を選んでクリックするとその画面が大きく映し出され、画面上をクリックするごとに例示となる言葉が順に表示され(図5) 最後には例文が表示される。

イ 動画を使って(感じたことを伝える表現)

「雷」は、夜空に稲光が次々と現れる動画である。稲光とともに明るくなる様子や驚き、自分の雷の経験をもとにした表現を引き出したい。

「ヤドカリ」は、浜辺を歩いているヤドカリが最後に波にさらわれてしまう動画である。動きの様子や感じたことを伝える表現を引き出したい。動画終了後、画面上をクリックするごとに、例示となる言葉が順に表示され、最後には例文が表示される(図6)。

ウ 3つの動画を使って(想像して伝える表現)

「牛の行列」「滝」「花火」が表示される。「牛の行列」の動画では、牛の様子や背景の様子を細かく観察したことを、「滝」の動画では、川の流れや川が滝になっていた移り変わりの様子を、「花火」の動画では、夜空に上がる花火の美しい様子や感じたことを、それぞれ分かりやすく伝える表現の工夫をさせたい。また、3つの動画を結びつけて話を作らせ、つながりを意識しながら想像して伝える表現をさせたい。各動画終了後、画面上をクリックしていくと、例示となる言葉と例文が表示される。3つの動画の画面が同時に表示され(図7)各画像をクリックすると何度も見られる。

図4 トップページ

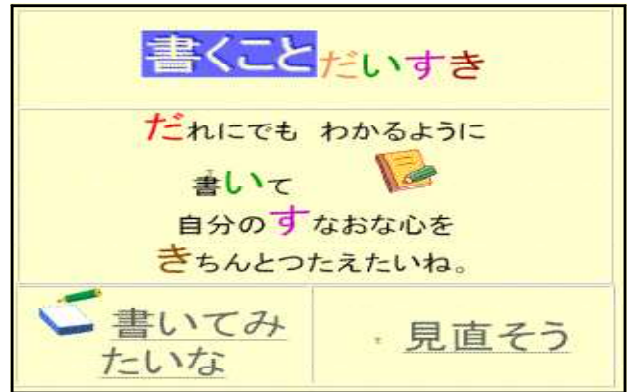


図5 「海の風景」における例示となる言葉



図6 「雷」における例文

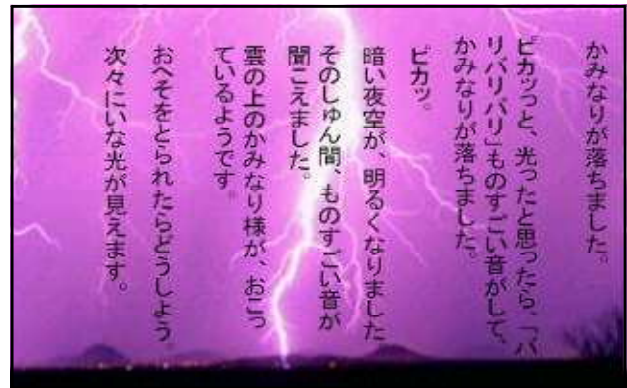


図7 「3つの動画を使って」の最終画面



(3) 見直そう

チェック1からチェック10まであり、問題に対する解答の選択肢をクリックすると、正誤と解説が表示され、見直し後クリックすると次へ進める(図8)。個々の児童が自分のペースで、書いた文章を繰り返し見直すことができる。

チェック1 題名・氏名の書く位置

題名や氏名が、原稿用紙やノートのマス目のどこに書いているかの見直しができる(図9)。

チェック2 書き始めの位置

文章の書き始めは、原稿用紙やノートの最初の1マス分あけているかの見直しができる。

チェック3 マスの中の「。」を書く場所

「。」が、原稿用紙やノートのマスのどこに書いているかの見直しができる(図10)。

チェック4 会話文における「。」の使い方
会話文における「。」の表記位置が、文章中で改行しているか見直しができる(図11)。

チェック5 敬体と常体の使い方

敬体(です・ます等)が常体(である・であった等)に統一して書いてある文とそうでない文を比較する問題が出される。敬体が常体に統一して書いてあるかの見直しができる(図12)。

チェック6 主語と述語の関係

文の主述がおかしいと分かりにくい文になってしまうことを確認できる。主述に気をつけて書いているかの見直しができる。

チェック7 漢字を使おう

ひらがなばかりで書いた文と漢字を使って書いた文を比較する問題が出される。習った漢字を文章で使っていくことの意義を確認できる。書いた文章をよく読むことで既習の漢字を使っているかの見直しができ、誤字脱字を見つけるきっかけにもなる。

チェック8 正しい接続語の使い方

文章に合う接続語を選ぶ問題が出され、接続語が文章の関係を把握する大切な役割を果たしていることを確認し、見直しができる。

チェック9 くわしくする言葉

修飾語を適切に使うと、様子がより伝わりやすくなることを確認し、見直しができる。

チェック10 段落を考えよう

文章をどこで区切ったら良いかを問う問題が出される。文章の構成やまとまりを考えて段落に分けて書いているかの見直しができる。すべてのチェックが終わると、トップページへ戻る。

図8 見直そうのトップページ



図9 チェック1の誤答画面



図10 チェック3の問題画面

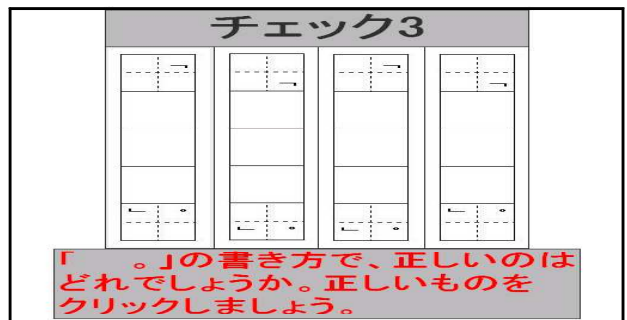


図11 チェック4の正解画面

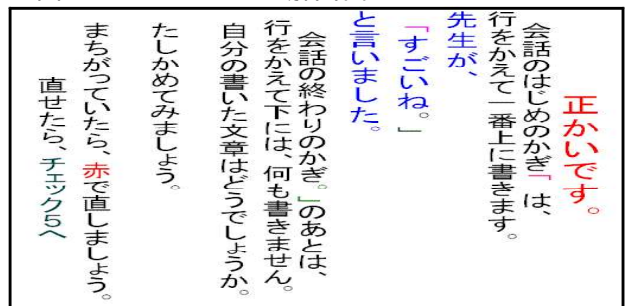
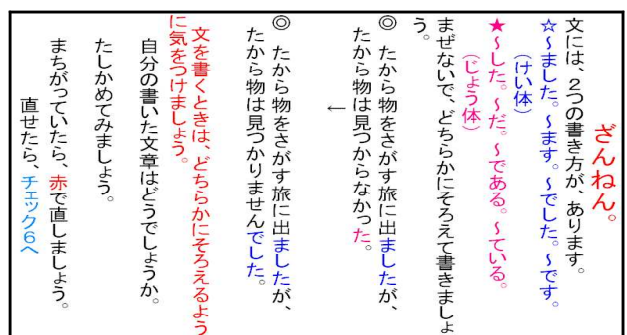


図12 チェック5の誤答画面



実践の結果と考察

1 授業実践計画

対象 吉井町立南陽台小学校 3年 27名

単元名 そうぞうをふくらませて書こう「3つの動画を使って」・「たから物をさがしに」

目標 地図をもとに物語の構成を考えて、主人公の気持ちや周囲の様子がよく分かるように物語を書き、友だちと読み合い、よい表現や工夫しているところを見つけ感想を交換することができる。

学習計画 8時間予定 (太字は、本教材活用部分)

時間	主な学習活動	支援及び留意点
3つの動画を 使って	1 教室のスクリーンに映し出された3つの動画を見て、ワークシートに思い浮かぶ言葉や文章を書く。例示を見る 発表し合う 3つの動画からお話を作る。 発表し合う。 よい文章表現をさがす。	・「書くこと大好き」の「3つの動画を使って」をコンピュータからプロジェクタにつなぎ教室のスクリーンに大きく映し出す。 ・浮かんでくる言葉や文章をそれぞれの場面ごとに考えさせるようにする。 ・文章にしたときに段落で分けて書いているところや、様子がよく分かるように書いている言葉に着目させるようにして、よい文章表現をさがすようにする。
たから物を さがしに	2 教科書のたから物の地図を見てどんなことを考えて書くとよいか確かめる。	・教科書の例文を用いて、よい表現について話し合うようにする。 ・前時の学習を想起させる。
	1 地図にせりふや言葉をたくさん書き込む。物語の構成を考える。	・地図を書いたワークシートを用意しておき、言葉やせりふをたくさん書けるようにする。
	2 考えた構成をもとに物語を書く。	・構成カードをもとに、場面の様子や登場人物の気持ちが分かるように書くことと文と文のつながりに気をつけながら書くことに注意させる。読み手によく分かる文章にするために書いたものを読み返す習慣をつけさせるようにする。 ・あとで全員の書いた話を本にしてまとめるため、原稿用紙に書かせる。
	1 「書くこと大好き」の「見直そう」を活用し書いた文章の見直しをする。(パソコン室)	・問題を解きながら、書いた文章を自分自身で何度も見直せるようにする。
	1 書いた物語を読みあって、感想を交換する。	・一度に全員の物語は読めないで、まず、グループで読みあい感想を発表する。話のおもしろさだけでなく、文章表現としてよいところも発表し合えるようにする。 ・全員が読めるように本にする。感想を書き入れる欄を作る。感想には、どんなところがよかったか、書いた人によく伝わるように書くように支援する。

2 授業実践

本時の目標 「書くこと大好き」の「3つの動画を使って」を見て、事柄や様子、感じたことがよく伝わる表現を使って、文章を書くことができる。

準備 マルチメディア教材「書くこと大好き」・コンピュータ・プロジェクタ・スクリーン
ワークシート

展開

主な学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目
教室のスクリーンに映し出されていく3つの動画を見て、ワークシートに、思い浮かぶ言葉や文章を書く。例示を見る。発表する。	15	・3つの動画の一つずつ映し出し、それぞれの動画を見て思い浮かぶ言葉や文章をワークシートに書かせていく。 ・例示にはなかった言葉がでたら、板書する。	* 思い浮かぶ言葉をワークシートにたくさん書き込んでいる。
3つの動画の場面をつなげて、お話を作る。 グループで、一人一人が書いた文章を発表し合い、文章のよいところをさがす。	25	・3つの動画の関連性については、児童一人一人に自由に考えさせる。書く順も自由に考えさせる。 ・場面の描写だけでなく、自分がその場にいたらどんなことを思ったか考えたかなど感じたことも文章にするように促す。 ・様子がよくかけている言葉に着目させるようにする。段落で分けていているところや接続語の使い方にも着目させる。 ・会話文や気持ちの伝わってくる言葉にも着目させる。 ・具体的にどのようところがよかったか、考えながら発表を聞くように促す。	* よく伝わる表現を考えて文章を書いている。 * 友達の文章のよい表現を見つけている。
グループの代表の児童の発表を聞く。	5	・発表するときに、スクリーンに場面ごとの動画をもう一度映しだしていく。	

3 結果と考察

本授業では、最初に「牛の行列」の動画を提示し、感じたことを書かせた。例文が表示されると、さらに、多くの文章を書くことができた。また、例示の言葉や例文以外に、「しっぽをふりながら」「モーモーと鳴かないでずかにか」という細かく観察したことを伝える表現の発表があった(図13)。「滝」の動画では、例示となる言葉として「水けむり」と表示した

図13 発表の様子

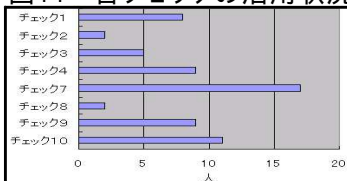


ときに、「けむりって書いた。水けむりっていうんだ。」とつぶやく児童もいた。さらに、「山の中の川につながっていたのは滝です。」「たくさんの水が、まさかさまに落ちていきます。」という移り変わりの様子や滝のすごさを伝える表現が見られた。「花火」の動画では、「暗い夜空が、カラフルな夜空に変わった。」「もう一度見たいくらいきれいな花火」という花火の美しさや自分の思いを込めた表現を使った児童もいた。

最後に、3つの動画を自由につないで話を書かせたところ、他の児童が発表した言葉を参考にして「ザーザーと音を立てて水がたきつぽへ落ちていきます。音もはんぱじゃありません。」という滝の様子が分かりやすく伝わる表現や「もやしのような火の玉が上がっていき、それだけでもきれいでした。そして、火の玉がきえたと思ったらパチパチと音をたてて光りだしました。」という想像力を働かせた表現が見られた。

授業後の感想では、「一つの絵からいろいろなことがうかんできた」「いろんな言葉が分かるようになった」「言葉がひらめいてくるようになった」とあった。これらのことから、静止画や動画を見て浮かんだ言葉や文章を書き、発表し合ったり例文を見たりすることで、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書くようになったと考えられる。

図14 各チェックの活用状況



「見直そう」を使った推敲では、全員が個々にコンピュータを使い問題に答えながら自分の書いた文章を直していた(図14)。「見直そう」を使った後に書いた作文では、題名・氏名の

位置を間違っていた8名のうちの5名と、「。」の位置を間違っていた9名のうちの6名が、正しく書けるようになった。活用後の感想では、「残念が出たあとに、説明が書いてあって見直しがかんたんだった。」「まちがいに気が付けた。」と回答があった。これらのことから、「見直そう」を使い、コンピュータ画面で一つ見直してから出される問題を解き、言語事項を確認し、自分の文章を自分自身で見直していくことで、書くための基本を再確認できたと考えられる。

単元後に書いた作文では、文章を書くのが苦手だった児童が、持久走大会の走っているときの思いを「心の中で『よし。』とさげんだ。ぼくは、一気にスピードを上げた」と表現を工夫して文章を書けるようになった。また、進級当初の春の遠足の作文で、出来事を羅列しただけの文章を書いていた児童が、秋の校外学習での思い出を「手が切れそうでもともこわかったです。」「作り終わったとき『やったあ。』と心の中でさげびました。」と思いを伝える表現を工夫して文章を書けるようになった。他の児童も同じように、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書けるようになった。さらに、書いた文章を「見直そう」を使って自分自身で見直しをしていくことで、正しい文章が書けるようになり、書くための基本も身に付いてきたと思われる。

研究のまとめと今後の課題

事柄や様子を見て感じたことを伝えたい印象的な静止画や動画をもとに文章を書かせ、見直すことができるマルチメディア教材「書くこと大好き」を作成し、活用したところ、分かりやすく伝えるために表現を工夫して文章を書くことができるとともに、書くための基本を身に付けることができるようになった。

今後の課題として、進んで伝え合うことができるように「書いてみたいな」の項目に児童自身が撮影した静止画も取り入れられるようにする。また、文章の組み立てに関する項目も取り入れたい。

<参考文献>

- ・生越 嘉治 著 「小学生のための『文章の書き方』トレーニング」 あすなる書房(2001)

(担当指導主事 齋藤 俊明)